

厚生労働科学研究費補助金

(難治性疾患政策研究事業)

難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究

令和2年度 第1回班会議

プログラム・抄録集

令和2年8月27日(木)

場所：都市センターホテル 601 会議室

研究代表者 針谷正祥

東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学講座

【血管炎関連2班合同班会議】

厚生労働省：難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班

AMED：難治性血管炎診療の CQ 解決のための多層的研究班

2020 年度 第 1 回 血管炎関連 2 班合同班会議 プログラム

期 日：令和 2 年 8 月 27 日（木）

場 所：都市センターホテル（web 会議も同時開催します）

難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班

1. 開会の辞 10：00－10：03
研究代表者 針谷正祥（東京女子医科大学）
2. 基調講演 10：03－10：23
厚生労働省 健康局難病対策課
3. 3 年間の本研究班全体の活動計画 10：23－10：40
研究代表者 針谷正祥（東京女子医科大学）
4. 分科会の活動報告および活動計画
 - 4-1. 中小型血管炎臨床分科会 10：40－11：00
分科会長 要 伸也（杏林大学）
 - 4-2. 大型血管炎臨床分科会 11：00－11：20
分科会長 中岡良和（国立循環器病研究センター）
 - 4-3. 小児血管炎研究 11：20－11：30
研究分担者 高橋 啓（東邦大学）
 - 4-4. 臨床病理分科会 11：30－11：50
分科会長 石津明洋（北海道大学）
 - 4-5. 領域横断分科会 11：50－12：10
分科会長 田村直人（順天堂大学）
- ※難病プラットフォームを利用した治療エビデンスの構築研究 12：10－12：30
血管炎レジストリ構築 樋口智昭（東京女子医科大学）
(抄録は AMED 「難治性血管炎診療の CQ 解決のための多層的研究」 3-1 をご参照ください)

5. 事務局からの連絡とお願い

12:30-12:40

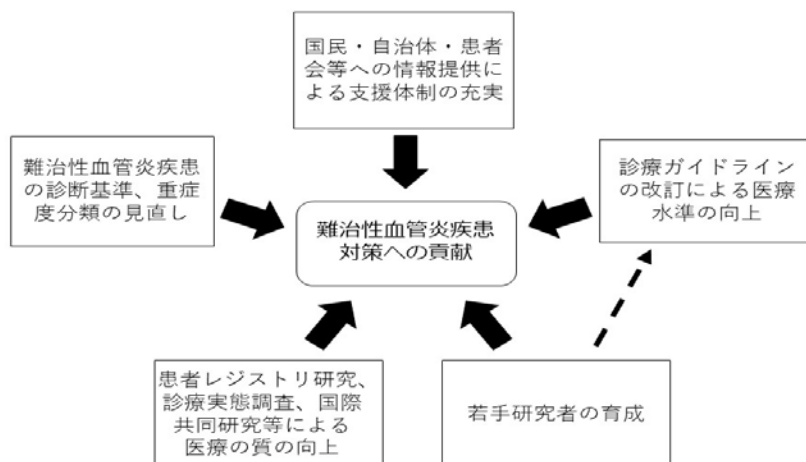
～ お 昼 休 憩 ～

12:40-13:30

血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班の3年度間の研究計画

研究代表者：針谷正祥 東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学講座 教授

- A. 研究目的：2017年度から2019年度の難治性血管炎に関する調査研究班は、ガイドラインを発表して血管炎診療水準の向上に努め、市民公開講座および関連学会との合同シンポジウム等を多数開催して、国民への普及啓発に努めてきた。血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班は、昨年度までの同班の研究活動を継続・発展させ、難治性血管炎疾患の医療水準の向上や患者の QOL 向上等を目指す研究開発推進の司令塔として難病・小児慢性特定疾病対策の推進に貢献することを目標とする。
- B. 方法：4分科会を設置し研究課題を進める。研究代表者は全体計画策定、進捗管理を行う。AMED 難治性血管炎診療の CQ 解決のための多層的研究班 (AMED 班) と共同で実施する【RADDAR-J [22]】 (難病プラットフォーム利用) には臨床系班員が参加する。WebEx、Zoom 等による Web 会議を活用して研究を進める。
- C. 結果・考察：オールジャパン体制による血管炎専門家集団として、血管炎疾患研究開発の推進の司令塔としての役割を果たすことが期待される。すなわち、1) 難治性血管炎疾患に関する国民・自治体・患者会等への情報提供による支援体制の充実、2) 難治性血管炎疾患の診断基準、重症度分類の見直し、3) 血管炎診療ガイドラインの改訂による医療水準の向上、4) 疫学研究、患者レジストリ研究、診療実態調査、国際共同研究等による医療の質の向上、5) 若手研究者の育成が期待される成果として挙げられる。
- D. 結論：これらの研究成果により、当研究班に期待される難治性血管炎疾患対策への貢献を実現できる。



4-1 中・小型血管炎臨床分科会

中・小型血管炎分科会会長：要 伸也 杏林大学医学部腎臓・リウマチ膠原病内科学 教授

分担研究者：

天野 宏一 埼玉医科大学・医学部 教授
佐田 憲映 高知大学・医学部 特任教授
土橋 浩章 香川大学・医学部 准教授
長坂 憲治 東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科 非常勤講師
南木 敏宏 東邦大学医学部 教授
樋口 智昭 東京女子医科大学・医学部 助教
坪井 直毅 藤田医科大学・医学部 教授
廣村 桂樹 群馬大学・大学院医学系研究科 教授
古田 俊介 千葉大学医学部附属病院 特任講師
和田 隆志 金沢大学・事務局 理事

研究協力者：

安倍能之 順天堂大学医学部膠原病内科学講座 助教
鮎澤 衛 日本大学医学部小児科学系小児科学分野 准教授
板橋美津世 東京都健康長寿医療センター・血液透析科 部長
一瀬邦弘 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学共同専攻リウマチ膠原病内科学分野 講師
伊藤秀一 横浜市立大学医学部 教授
井上永介 昭和大学 統括研究推進センター 教授
遠藤修一郎 滋賀県立総合病院 副部長
遠藤知美 田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科 副部長
加藤将 北海道大学病院内科 助教
岸部 幹 旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
金子修三 筑波大学臨床医学域医学医療系腎臓内科学 講師
川嶋聡子 杏林大学医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科 任期制助教
神田祥一郎 東京大学医学部小児科 特任講師
神田 隆 山口大学大学院医学系研究科 教授
小林正樹 東京女子医科大学 医学部 脳神経内科 助教
坂本 晋 東邦大学医学部内科学講座呼吸器内科学分野（大森）准教授
小林徹 国立成育医療研究センター臨床研究センター データサイエンス部門 部門長
坂野章吾 愛知医科大学 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授（特任）
関谷潔史 国立病院機構相模原病院アレルギー・呼吸器科 部長
辻本 康 協和会協立病院 腎臓透析センター 医員
遠山直志 金沢大学附属病院 先端医療開発センター、金沢大学大学院 腎臓内科学 特任准教授
尾内善広 千葉大学大学院医学研究院公衆衛生学 教授
中枝武司 新潟大学大学院医歯学総合研究科腎・膠原病内科学分野 講師
中沢大悟 北海道大学病院 内科2 助教
中屋来哉 岩手県立中央病院腎臓・リウマチ科 科長
南郷栄秀 独立行政法人地域医療機能推進機構東京城東病院総合診療科 科長
難波大夫 名古屋市立大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院准教授
服部元史 東京女子医科大学医学部 教授

林 太智	筑波大学医学医療系/筑波大学附属病院社会連携教育研究センター/(株)日立製作所ひたちなか総合病院 准教授
原 章規	金沢大学 医薬保健研究域医学系 准教授
松本佳則	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 研究准教授
水野正巳	岐阜大学医学部 助教
宮崎佑介	産業医科大学医学部第1内科学講座 助教
宮前多佳子	東京女子医科大学医学部 准教授
宮脇義亜	岡山大学病院新医療研究開発センター 助教
村川洋子	島根大学医学部附属病院難病総合治療センター 教授
三浦健一郎	東京女子医科大学 腎臓小児科 准教授
山村昌弘	岡山済生会総合病院リウマチ・膠原病センター センター長
山本伸也	京都大学医学部附属病院腎臓内科学 医員
小川法良	浜松医科大学 第三内科 病院准教授
鈴木勝也	慶應義塾大学 医学部リウマチ・膠原病内科 専任講師
齋藤雅也	秋田大学医学部附属病院 血液腎臓膠原病内科学講座 助教

- A.** 研究目的：難治性血管炎班で扱う指定難病9疾患のうち、中・小型血管炎にはANCA関連血管炎(AAV)の3疾患(顕微鏡的多発血管炎/MPA、多発血管炎性肉芽腫症/GPA、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症/EGPA)のほか結節性多発動脈炎(PAN)、悪性関節リウマチ(MRA)が含まれる。本分科会の研究目的は、これらの対象疾患について、診療ガイドライン(CPG)等の作成・改訂と関連学会等の承認取得、既作成CPGのモニタリングと評価、重症度分類および厚労省診断基準の改訂、臨床調査個人票解析、臨床試験を、他分科会やAMED班とともに協力して実施し、これらの研究を通じて、これらの各疾患の診療実態を解明し、診療水準の向上と普及啓発を図ることを目的とする。小児血管炎も2017年度より難治性血管炎班の調査対象疾患に加わり、当分科会で扱う。当分科会においても、自然歴・予後因子の解明と新たな治療法の開発を目指した血管炎前向きコホート研究(難病プラットフォーム研究RADDAR-J)を遺伝子解析も含めて推進してゆく。
- B.** 方法：3年間を通じて、ANCA関連血管炎診療GL改訂(アルゴリズム、アウトカム、CQの検討)、指定難病重症度分類改訂、RemIRIT研究データベース解析、診断基準の作成・改訂準備、臨床調査個人票解析、ANCA陽性間質性肺炎の疫学研究(びまん性肺疾患班との共同研究)などの課題を計画的に進めてゆく。
- ① ANCA関連血管炎診療GL改訂準備(アルゴリズム、アウトカム、CQの検討)：今回の分科会の中心的な作業になる。AAV-CPG改訂の統括委員会を組織し、COI管理を行いつつ、ガイドラインのトピック(スコープ)と優先順位を決定し、パネルメンバーを領域別に選定する。この際、関連学会からの委員も兼務して頂く方向で、各学会に依頼する。患者代表も入れる。その後、パネル会議を開催し、重要臨床課題やアウトカムの設定を行う。SRチームは「血管炎・自己免疫疾患診療ガイドライン作成のためのシステマティックレビュー勉強会」

を自己免疫班と合同で立ち上げる。この際、勉強会に班員の施設から若手医師・研究者をご推薦いただき、30名規模のチームを作る。1年半程度かけて、講習会と実践を繰り返して今年度～来年中にSRを完成させ、3年以内のガイドライン改訂を目指す。

- ② 指定難病重症度分類の改訂：厚労省による重症度の疾患群改訂状況を見ながら、必要に応じて各疾患の重症度分類改訂の準備を行う。
 - ③ RemIRIT 研究データベース解析を進める。
 - ④ 診断基準の作成・改訂：DCVAS の進行状況を見ながら、本邦の診断基準改訂の準備と検討を開始する。
 - ⑤ 臨床調査個人票解析：昨年度までのWGのメンバーを中心に継続して解析を進める。
 - ⑥ ANCA 陽性間質性肺炎の疫学研究準備：びまん性肺疾患班と共同研究を進めてゆく。
 - ⑦ その他：血管炎症候群治療の手引き2020（EGPA、PAN、MRA）について、完成後の評価、改訂の準備等を行ってゆく。まずは横断分科会と協力して、周知度のアンケート調査の検討を始める。
- C.** 結果：分科会メンバーが決定し、それぞれのテーマについて検討が始まっている。
- D.** 考察：研究の継続性ととも、小児例を含めた研究体制の統合が図られ、各研究課題をオールジャパンで推進できる体制が整っている。各テーマについて、他の分科会、AMED 班、患者会や関連団体とも連携を取りつつ、年度ごとの研究計画にそった着実な目標達成が求められる。
- E.** 結論：本研究計画の着実な実践を通じて、難治性血管炎各疾患の実態解明と普及啓発が進み、診療水準と予後の向上の実現が期待できる。

4-2 大型血管炎臨床分科会報告

- 分科会長 中岡 良和 (国立循環器病研究センター血管生理学部 部長)
- 研究分担者 石井 智徳 (東北大学病院 臨床研究推進センター 特任教授)
- 内田 治仁 (岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科 教授)
- 杉原 毅彦 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 寄附講座准教授)
- 新納 宏昭 (九州大学・大学院医学研究院 教授)
- 吉藤 元 (京都大学・医学部附属病院免疫・膠原病内科 病院講師)
- 渡部 芳子 (川崎医科大学・医学部 特任講師)
- 研究協力者 赤澤 宏 (東京大学医学部附属病院 講師)
- 有田 陽 (地域医療機能推進機構(JCHO)大阪病院 循環器内科 医長)
- 石崎 淳 (愛媛大学医学部(第一内科(血液・免疫・感染症内科学)) 講師)
- 伊藤 秀一(兼務)(横浜市立大学医学部 教授)
- 岩田 直美 (あいち小児保健医療総合センター 免疫アレルギーセンター
副センター長)
- 根田 直子 (東京女子医科大学 医学部 助教)
- 重松 邦広 (国際医療福祉大学 医学部、三田病院血管外科 教授)
- 清水 優樹 (名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学 助教)
- 永淵 裕子 (聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科 講師)
- 橋本 拓弥 (埼玉医科大学 医学部 講師)
- 前嶋 康浩 (東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 准教授)
- 宮前多佳子 (兼務)(東京女子医科大学 医学部 准教授)
- 真鍋 侑資 (国立循環器病研究センター血管生理学部 流動研究員)
- 岩橋 徹 (東京医科大学 医学部 心臓血管外科 講師)

- A. 研究目的：大型血管炎に属する高安動脈炎(TAK)や巨細胞性動脈炎(GCA)、そしてバージャー病は何れも希少疾患であり、診断・治療法は未だ十分に確立されているとは言えない。一般診療医が正確に上記の疾患の鑑別診断をして安全性・有効性の高い治療を選択できる様にするためには、最新の情報に基づく診療ガイドライン(CPG)が必要であり、当研究班と学会等の合同班によって2018年3月に「血管炎症候群の診療ガイドライン2017年版」が改訂・刊行された。本研究では、改訂CPGのモニタリング・監査を行いながら、次のCPG改訂の準備を進める。本研究の目的は、①TAK, GCA, バージャー病に関する様々な疫学調査研究などを通じてわ

が国でのこれらの疾患に対する診療と治療の現状を明らかにすること、②CPG 改訂などに必要な診療情報の基盤を構築することである。

- B. 方法：①TAK, GCA, バージャー病の CPG の改訂の準備を進めるとともに、TAK, GCA, バージャー病の診断基準、重症度分類、臨床個人調査票の改訂に向けた準備・検討を進める。②平成 27 年度から実施中の大型血管炎を対象とするレジストリー研究（大型血管炎の後ろ向き、前向き登録研究）のデータ収集と解析を継続して、論文化を進める。③臨床個人調査票を用いた疫学研究では、2013 年度、2014 年度の TAK 患者の臨床個人調査票を用いた解析結果については論文化を進めるとともに、可能なら新たに厚労省から 2017 年度以降の TAK, GCA（とバージャー病）の臨床個人調査票データを再度供与頂き、以前の臨床個人調査票データとの比較・検討を試みる。④大型血管炎の心臓血管手術症例に関する症例登録研究を新たに立ち上げる。後ろ向きに TAK, GCA 患者での心臓血管手術を受けた患者の手術前後の管理状況、予後に関する調査を行う予定で、現在プロトコール作製中である。小児血管炎研究グループでは、⑤大型血管炎の全国疫学調査データによる小児期発症 TAK 症例の解析研究を新たに立ち上げて、⑥TAK 女性患者と妊娠・出産の実態調査を継続して遂行する。

- C. 結果：当班で進めている疫学調査の前向き研究は、2019 年 3 月 31 日をもって新規登録は終了となっている。最終的に 191 例（TAK70 例、GCA121 例）が登録されて、3 年間フォローされる予定であり、順次解析も進める。後ろ向き研究では、合計 311 例（TAK166 例、GCA145 例）が登録された。GCA の後ろ向きデータは、杉原毅彦先生が中心となって解析が進められて、ベースラインで大動脈病変を有する GCA 患者は大動脈病変を有さない GCA 患者より有意に予後が不良であることが明らかにされて、*Arthritis Res Ther.* 誌に本年 4 月 7 日付けで掲載された。また、TAK 後ろ向きデータについては現在解析中で、本年度中に論文化予定である。

また、臨床個人調査票を用いた研究では、渡部芳子先生が中心となりバージャー病の臨床個人調査票（2013-2014 年）のデータ解析が進められ、バージャー病の患者数が 2000 年より日本では減少していること、高齢発症や動脈硬化、非喫煙者、軽症患者などの特徴を持つ患者が増えていることが論文化されて、*Circ. J.* 誌に本年 6 月 30 日付で受理された。

小児血管炎研究グループによる TAK 女性患者と妊娠・出産の実態調査では、現在までに倫理委員会承認 16 施設、登録 16 症例、18 妊娠が報告されているが、更にデータ集積を進める予定である。

- D. 考察：本調査班で進めている地道な疫学調査によって、大型血管炎（TAK, GCA）とバージャー病に関する新しい情報が集積していくことが期待される。今後の大型血管炎臨床分科会での活動を通じて疫学的情報のアップデートに努めて、上記疾患の診断基準、重症度分類、臨床個人調査票の改訂準備を進める。

- E. 結論：我が国の大型血管炎（TAK, GCA）とバージャー病における診療・治療の実態を、後ろ向き・前向き登録研究での疫学調査、臨床個人調査票等による調査から多角的に明らかにして行くことは重要である。

4-3 小児血管炎研究体制

研究分担者	高橋 啓	東邦大学医療センター大橋病院病理診断科・教授
研究協力者	宮前多佳子	東京女子医科大学 医学部・准教授
	岩田直美	あいち小児保健医療総合センター 免疫アレルギーセンター・副センター長
	伊藤秀一	横浜市立大学医学部・教授
	神田祥一郎	東京大学医学部小児科・特任講師
	三浦健一郎	東京女子医科大学 腎臓小児科・准教授
	服部元史	東京女子医科大学腎臓小児・教授
	小林 徹	国立成育医療研究センター 臨床研究センター データサイエンス部門・部門長
	鮎澤 衛	日本大学医学部小児科学系小児科学分野・准教授
	尾内善広	千葉大学大学院 医学研究院 公衆衛生学・教授

A. 研究目的：小児領域における難治性血管炎（高安動脈炎、結節性多発動脈炎、川崎病、AAV）研究を横断的に推し進める。

B. 今年度計画と進捗状況

【小児血管炎研究】 難治性血管炎班・3学会合同で小児血管炎のシンポジウム、公開講座を企画する。

【高安動脈炎】 ①高安動脈炎(TAK)女性患者と妊娠・出産の実態調査：大型血管炎コホート研究対象施設を中心に症例蓄積中。2020.7.10現在、倫理委員会承認16施設、登録16症例、18妊娠。妊娠時年齢33才、罹病期間5.2年（いずれも中央値）。人工中絶1例を除く17妊娠で生産児が得られ、妊娠経過中の原疾患の再燃は1例、合併症は高血圧が最多で3例。4/17例が早産で、5例(29%)が低出生体重児であったが全例出生体重2,000g以上で出生後の児の重篤な異常はなく、確認できた14例全例が完全または混合で母乳栄養が可能であった。②大型血管炎全国疫学調査データによる小児期発症TAK症例の解析研究を企画し疫学調査の2次調査解析中。TAK総数1571例のうち、18才未満発症例256例(16.3%)の特徴について検討。腎動脈病変が成人発症例に比較し有意差をもって高率である実態が明らかとなる。③小児TAK患者・保護者に向けた疾患・治療説明資料「小児発症高安動脈炎の子どもと親のためのガイド」の執筆完了し、現在出版準備中。④広報活動：第70回ドクターサーチみやぎ健康セミナー 市民公開講座「みんなで学ぼう 血管炎の最新治療」（2020.2.9 仙台）

【結節性多発動脈炎】 PAN WGにおいて、小児PANの啓発活動を含む研究に参加する。

【川崎病】 ①欧米でCOVID-19に関連した multisystem inflammatory syndrome in children (MIS-C)中に川崎病様症例が増加しているとの報告をうけ、2020.5本邦における川崎病の発生、重症度に変化があるか、小児のCOVID-19発生状況について学会運営委員向けに緊急アンケート調査を実施した。②その後の状況を把握するため、学会会員施設に対し、川崎病患者に対するSARS-CoV-2 virus検査の実施状況、川崎病とCOVID-19合併症例の頻度などについてアンケート調査を行う予定である。③川崎病診断の手引きのガイドブックを発行した。④日本循環器学会GL、日本小児循環器学会の急性期治療GLに班員が参加している。⑤啓蒙活動：川崎病の子供

を持つ親の会の公開講座に協力。

【ANCA 関連血管炎】 ①小児血管炎、MPA/GPA WG、EGPA WGに参加し、診療ガイドライン（手引き）の作成・修正、臨床調査個人票・重症度分類の改訂を行う。②啓発活動：第56回日本小児腎臓病学会学術集会においてシンポジウム開催を計画している。日本における小児 ANCA 関連腎炎と学校検尿にフォーカスし文献考察を進め、症例報告や総説論文を作成予定。

C. 考察：小児血管炎研究における活動は順調に進んでいる。

D. 結論：今年度も臨床分科会内で研究を継続すると共に、小児血管炎研究体制として情報共有を図る。

4-4 臨床病理分科会 2020 年度活動計画

分科会長	石津明洋（北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学/教授）
研究分担者	川上民裕（東北医科薬科大学・医学部皮膚科学教室/教授） 菅野祐幸（信州大学・学術研究院医学系/教授） 高橋 啓（東邦大学・医学部/教授） 宮崎龍彦（岐阜大学・医学部附属病院/准教授）
研究協力者	池田栄二（山口大学大学院医学系研究科 病理形態学講座/教授） 大原関利章（東邦大学医療センター大橋病院病理診断科/准教授） 小川弥生（NPO 法人北海道腎病理センター/副理事長） 鬼丸満穂（九州大学大学院医学研究院 病理形態学/助教） 倉田美恵（愛媛大学大学院医学系研究科解析病理学/講師） 中沢大悟（北海道大学病院 内科 2/助教） 武曾恵理（財）田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科/客員研究員）

A. 目的：実地臨床医ならびに実地病理医の血管炎診療の質を高めることを目的とする。

B. 課題：

1. 血管炎病理診断コンサルテーションシステムの運用
2. 血管炎病理学的所見における未解明問題への取り組み
 - 1) GCA の大型血管病変の病理学的特徴の解明
 - 2) AAV の上気道生検組織の病理学的特徴の解明
 - 3) PAN の皮膚病変と皮膚動脈炎の病理学的特徴の相違の同定
 - 4) FFPE 切片を用いた血管壁免疫グロブリン沈着の検出

C. 進捗と今年度計画：

1. 2019 年 11 月 28 日以降、抄録提出時まで 9 症例のコンサルテーションを実施（VC028～VC036）。VC028～VC036 をバーチャルスライド化。運用を継続する。
2. 研究の進捗と今後の実施について
 - 1) GCA の大型血管病変の病理学的特徴の解明
班員アンケート、剖検輯報の検索、文献・学会・研究会における症例報告の検索により、C-GCA with EECI (cranial GCA with established extracranial involvement) 複数症例を見出し、倫理審査を経て、組織標本を入手、review した。C-GCA with EECI の病理学的特徴を抽出する。（WG 座長：菅野祐幸）
 - 2) AAV の上気道生検組織の病理学的特徴の解明
旭川医科大学耳鼻咽喉科より提供された OMAAV 病変と対照病変の組織標本について予備比較を行い、筋性動・静脈炎の有無、筋性動・静脈の閉塞の有無、浮腫・好酸球浸潤・形質細胞浸潤の程度が OMAAV 鑑別の組織学的指標となりうることを見出した。聖マリアンナ医科大学大学院疾患バイオマーカー・標的分子制御学 黒川真奈絵教授の協力を得て、抽出した因子の validation を行う。（WG 座長：宮崎龍彦）
 - 3) PAN の皮膚病変と皮膚動脈炎の病理学的特徴の相違の同定
PAN と皮膚動脈炎ならびに両者の境界型に相当する病変の皮膚生検画像を人工知能 (AI) が区別するか、区別する場合、AI はどの所見に着目するか同定する（WG 座長：石津明洋）
 - 4) FFPE 切片を用いた血管壁免疫グロブリン沈着の検出
IgA 血管炎の診断が確定している症例の皮膚生検 FFPE 切片を収集し、IgA や補体の沈着を検出するための抗原賦活法を検討する。（WG 座長：未定）

4-5 領域横断分科会

研究分担者氏名：

田村 直人 順天堂大学 大学院医学研究科 教授
猪原 登志子 京都府立医科大学・附属病院臨床研究推進センター 講師
河野 肇 帝京大学・医学部内科学講座 教授
駒形 嘉紀 杏林大学・医学部 教授
杉山 斉 岡山大学大学院・医歯薬学総合研究科 教授
坂東 政司 自治医科大学・内科学講座呼吸器内科学部門 教授
藤井 隆夫 和歌山県立医科大学・医学部 教授

研究協力者氏名：

安倍 能之 順天堂大学 医学部 膠原病内科学講座 助教
菊池 正雄 宮崎大学医学部附属病院 血液浄化療法部 准教授
黒川 真奈絵 聖マリアンナ医科大学大学院 疾患バイオマーカー・標的分子制御学 大学院教授
小寺 雅也 独立行政法人地域医療機能推進機構 中京病院 皮膚科 部長
田巻 弘道 聖路加国際病院 医長
宮脇 義亜 岡山大学病院 新医療研究開発センター 助教
矢嶋 宣幸 昭和大学医学部 准教授

A. 研究目的：領域横断分科会は、全身性血管炎の各疾患に関する正しい知識や、本研究班で作成された診療ガイドラインについて、専門医、非専門医、および患者に対して広く啓蒙および普及活動を行うことにより、血管炎診療の標準化や早期からの適切な治療・管理による患者QOL改善に貢献することを目的とする。また、本研究班におけるガイドライン作成を補助するとともに、国際的な研究プロジェクトへの参加を支援することによりエビデンスの構築にも寄与する。

B. 方法：

1. 啓発活動

1) 合同シンポジウム

全身性血管炎の病変は多岐に渡り、診療科連携が不可欠であることから、関連学会との合同シンポジウムを積極的に行うことにより連携を深め、各診療科における最新の知見の共有を図る。2020年10月10日に第59回日本鼻科学会総会・学術講演会において、合同シンポジウム「上気道の難治性血管炎の臨床像と病態」の開催を予定している。他の学会との合同シンポジウムについても、開催を企画する予定である。

2) 市民公開講座

患者友の会とも連携し、難治性血管炎の各疾患に関する市民公開講座の開催を計画する。新型コロナウイルス感染の状況下を考慮し、Web配信による公開講座を企画検討中である。

3) 診療ガイドラインに関するアンケート調査

血管炎に関する最近のガイドラインである「ANCA関連血管炎ガイドライン2017（難治性疾患政策研究事業）」、「血管炎症候群の診療ガイドライン2017改訂版（日本循環器学会）」等について、その普及度、使用実態等についての調査、解析を行う。

4) ホームページの作成・管理

本研究班のホームページを作成・管理し、当研究班の活動等に関する広報を行う。

2. 国際共同研究の参加支援

VCRC (Vasculitis Clinical Research Consortium)によるVasculitis Clinical Research Investigators Meeting (年1回)に参加し、国外における臨床研究に関する最新情報を収集するとともに、国際共同研究への参加支援を行う。現在、本研究班が関与している国際共同研究であるV-PREG、およびARAMISが進行中である。また、以前に研究協力を行ったDCVASに関連する研究の追跡を行う。

3. システマティック・レビュー勉強会によるガイドライン作成支援

MPA、GPAの治療ガイドライン改訂および研究者育成を目的として、「自己免疫疾患に関する調査研究」班と合同で、ガイドライン作成に興味を持つ研究者を公募してシステマティック・レビューチームを立ち上げ、その勉強会を企画、運営する。本年度は、Web講演会を行い、パネル会議にて決定されたCQに対してハンズオンセミナーを開催して実際の作業を行うことを予定している。

4. 新規薬剤・検査等に関する情報収集

国内外の血管炎に関する検査および治療薬に関する開発状況を調査、収集し、その知見を共有する。

厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)
難治性血管炎の医療水準・患者 QOL 向上に資する研究班 事務局

東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学講座

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1

TEL : 03-3353-8112 (内線 34325) FAX : 03-5269-9154

E-mail : vas-mhlw.be@twmu.ac.jp